

中部経済新聞

事業の目的はつねに、資本所有者の投資に対して適切な見返り(リターン)を生み出すことにある。単純なモデルでいうなら、短期的には所有者へのキャッシュフロー、長期的には投資先企業の資産価値の増加がリターンといえる。企業の成功は、投資に対する

↑ ナビゲーター

するリターン状況によって測定される。

持続可能な発展のための原則は、持続可能性についての三つの柱の幸福度の評価に基づいている。3本柱とは①地球の幸福②人類の幸福③経済の幸福つまり地球、人類そして利益である。成功が評価

日本への期待
世界各地から

其 84

地球と人類、経済の幸福のために

されるとき、これらの柱は相互に絡み合っており、一つの柱が成功していても全体的な成功にはならない。持続可能な発展の基本原則では、一つの柱での成功が他の柱の弱体化に結びついてはならないとする。

フィンランドから(上)

企業にとって基本的使命に関する価値を軽視する一方、新しいことを推進しようとする情熱は、企業が三つのすべての柱で同時に成功することを困難にしている。

このような成功の定義に関する困難さは、事業に関する意思決定を複雑にさせ、経営幹部が明確な長期目標と指標を設定する際の課題ともなっている。職業的専門家としての経営コンサルタントの重要な仕事は、成功した先駆者であり続けながら、企業の競争力強化を支援することである。

成功の評価は、持続可能な発展の三つの柱に基づいて行われる。企業が依然として可能なかぎり最高の事業成果を上げる必要があるのは、至極自然なことである。だからといって、地球や人類の幸福を損なうてなされるべきことではない。持続可能な発展の重要な宣言のひとつは「著しい害のないこと」である。つまり、一つの柱の利益のために、他の柱を弱体化させてはならないということだ。地球や人類の幸福を破壊する(1)ことで、さらなる経済的利益を求める

「利益」は薄汚れた言葉ではなく、逆に財務的に成功した企業だけが、持続可能な基盤上で事業を営み、持続可能な総合的な成功を得ることができる。持続可能な発展の原則は、新たな事業モデル、事業領域、業務を開発・拡大するために、これまでの考え方や慣習から一歩踏み出す能力が必要である。

【キム・カルメ、リーム中産運】

(月曜日に掲載)